



発行所
社団法人 国民文化研究会
(九州←→東京←→全国)
東京都渋谷区東1-13-1-402
振替 00170-1-60507
電話 03-5468-6230
FAX 03-5468-1470

月刊「国民同胞」編集部
毎月一回10日発行
購読料 年間2000円

皇后さまのお言葉にふれて思ふこと

内海 勝彦

本年十月二十日、皇后さまの七十二歳の御誕生日に際しての、恒例の記者会からの質問に対するご回答は印象深いものだった。悠仁さまの御成長への願ひをお述べになる中で、

「自分たち共同社会の出来事」との
お言葉は、時の政治家や政府関係者
だけでなく、私達日本人全てに対し
て、身内を隣国に拉致されて苦しん
でゐる御家族に対して同じ日本人と
して何もして来なかつた事、日本人
同士のつながり、即ち、国民同胞感
が稀薄だつた事をご指摘されてゐる
ものと恐懼せざるを得なかつた。

所謂「ナルちゃん憲法」はメモの集
まつたもので「帝王学」といったも
のではなく、何よりも皇太子さまの
教育で最も大切に考へられたのは
「昭和天皇と今上陛下のお姿に学ぶこ
とであつた」とのご述懐に、教育の
要諦を見る思ひがしたのである。

私は日頃から、皇后さまの御歌や

「陛下のおそばにあって、すべてを

お言葉に接すると、現代の日本人へ
の警鐘とも言ふべきご慧眼に触れさ
せて戴いた感じがして心開かれる思
ひがしてゐる。北朝鮮に拉致された
日本人五人の帰国が実現した平成十
四年の時もさうであつた。

善かれと祈り続ける者でありたい」
(皇室像についての質問に対するご回答
平成六年)と仰せられる皇后さまのお
目に、最近の相次ぐ子供の自殺はど
のやうに映つてゐるのだらうか。未
来ある日本の子供達の明日を何より

「何故私たちが皆が、自分たち共同社

会が出来事として、この人々の不

案じられる皇后さまにとってご心痛
はいかばかりか。これにつけて思ひ
起されるのが、平成十年の第二十六
回IBBY(国際児童図書評議会)ニ
ューデリー大会でのビデオによるご
講演『子供時代の読書の思い出』で
ある。そこに読書のみならず、広く
教育を通してどの様な子供に育てる
べきかの原点が示されてゐると思は
れるからである。

皇后さまは、一国の神話や伝説は
正確な史実ではないかも知れないが、
不思議とその民族を象徴すると述べ
られ、お父様から贈られた神話伝説
の本は、個々の家族以外にも民族の
共通の祖先があることを教へてくれ
た。その意味で、自分に一つの「根
っこ」のやうなものを与へてくれた
と述懐されてゐる。また、読書は自
分の心を高みに飛ばす強い「翼」の
やうに感じられたとも回想され、次
の言葉で講演を締めくくられた。

「子供達が、自分の中に、しっか
りとした根を持つために
子供達が、喜びと想像の強い翼
を持つために
子供達が、痛みを伴う愛を知る
ために
そして子供達が、人生の複雑さ
に耐え、それぞれに与えられた人

生を受け入れて生き、やがて一人
一人、私共全てのふるさとである
この地球で、平和の道具となつて
いくために」

これほど美しく簡潔に教育のあり
方、その目指すべき道を表現した言
葉を私は知らない。単に命は大事だ
から死ぬなどの型通りのメッセージ
では子供達の心は動かないだらう。
皇后さまが弟橘比売の物語の中に
「愛と犠牲の不可分性」への畏怖を直
感された如く、さうした人の命だか
らこそ尊いのであり、世のため人の
ために将来尽すべきことを教へるの
が大人の務めではなからうか。そし
て子供達が人生の複雑さに耐へる時
に支へとなるのが家族である。

「家族の中に苦しんでゐる人がある
といふことは、家族全員の悲しみ
であり、私だけではなく、家族の
皆が東宮妃の回復を願ひ、助けに
なりたいと望んでゐます」(雅子さ
まのご療養に關してのご回答。平成十
六年)

両陛下のかうしたお氣持そのまま
が私達国民にも注がれてゐる有難さ
をしみじみ感じると共に、皇后さま
のこのお言葉に私達も学びたいと思
ふのである。(株)アイ・エイチ・ア
イ・エアロスペース勤務 数へ五十二歳